



畑分校の生徒は、全部で8人。雪に閉ざされた長い分校生活が始まるのです。

これとは反対に、北秋田郡上小阿仁中学校の折渡冬季分校は、本校に寄宿舍が出来ることになって、今年から廃止されました。これは寄宿舍完成前の仮住まいですが、現在、男女合わせて26人が、共同生活を送っています。受験期を間近に控えた生徒達は、

これまで4時間も通学に費やした時間を挽回しようと懸命です。夕食準備は、女生徒のサービス。旺盛な食欲が満たされます。食後の一時は、さすがのんびり。思い思いに過ごすこの時間が、一番楽しいときです。今年初めてのこの寄宿舍制度は、学力の向上、共同生活の体験など、プラスの面が多いことから、成果が注目されています。

Ⅶ 昭和46年2月「県政ニュースNo.134」

①まちなに残った若者たち



雄勝町院内。山形県境に近いこの山懐に囲まれた院内も、他の町村と変わりなく、11月の中旬から4月上旬まで多くの人が出稼ぎに行く。今年も1200人の方がこのまちから出て行った。

「すすき」君、「こまつ」君、「ふじた」君、「たけうち」君。4人の23才の若者達は、まちなに残った。農家の中では、この4人だけがまちなに残ったという。まちの将来を考えると「残って何かをやらねば」と決心したのである。そして、彼らは豊富な林の

利用に目を付け、共同でシイタケの不時栽培を始めたのである。若者達は今日も雪山へ向かう。昨年はほだ木1万本を作ったが、シラタケの栽培でかなりの収益を上げ、自信を深めた。

この若者達の夢は大きい。「2年後には、ほだ木を5万本にして、1日1万円の純益を上げたい」と意欲的だ。若者達は、ほだ木を取るため、更に奥地に入る。深い雪道も苦にもならない。

彼らは言う。「減反や生産調整という厳しい農業の現実を見るとき、出稼ぎに行くのも結構なことであるが、その間、農業の将来を考えることがあるか。」と。まちなに残ったただ4人の若者は、このシイタケ栽培に大きな夢を託しているのである。

■ 秋田県公文書館 ■
〒010-0952 秋田市山王新町14-31
TEL 018-866-8301
FAX 018-866-8303
E-mail koubunshokan@pref.akita.lg.jp



県政映画上映会

～秋田昭和の時代 映像アーカイブ～

令和2年10月30日（金） 秋田県公文書館 3階 多目的ホール
1回目 9:20～10:20 2回目 10:50～11:50 3回目 13:30～14:30

本日のプログラム

◆ ごあいさつ ◆

◆ 作品上映 ◆

I 昭和34年11月「県政ニュースNo.24」

- ①文化の日にぎわう
- ②雄物川のさけ網
- ③第14回国体開く

II 昭和39年11月「県政ニュースNo.62」

- ①功績を讃えて～県文化功労章受賞式
- ②出かせぎ相談所開設
- ③ふるさと散歩…本荘

III 昭和52年12月「(新)県政ニュースNo.38」

- ①功績をたたえる～第22回県文化功労者表彰式典
- ②一世紀の歩み豊かに実る～第100回種苗交換会

～ 休憩 ～

IV 昭和39年7月「県政ニュースNo.58」

- ①明日の農業をにあって～ゼミナール開講
- ②トピックス…空の新路線
待望の道路工事
- ③ふるさと散歩…院内

V 昭和38年12月「県政ニュースNo.53」

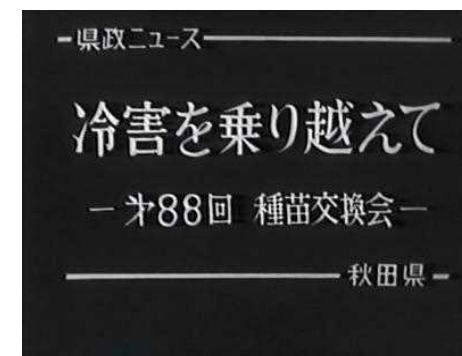
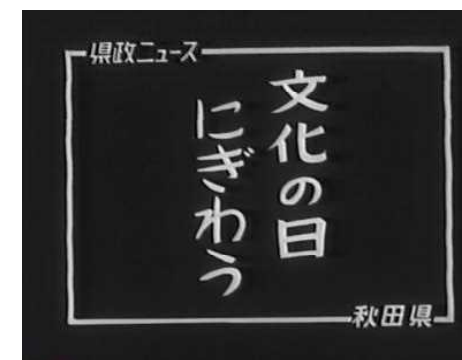
- ①冬に学ぶ山の子ら
- ②ふるさと散歩…秋田駅

VI 昭和40年12月「県政ニュースNo.75」

- ①建設進む萩形ダム
- ②冷害を乗り越えて～第88回種苗交換会
- ③国道108号線を行く

VII 昭和46年2月「県政ニュースNo.134」

- ①まちなに残った若者たち
- ②トピックス…明るく正しい選挙を
- ③あすへのシュプール～第22回県体スキー競技会



～はじめに～

懐かしい昭和の秋田をご観覧ください！

秋田県内でのテレビ放送が始める前の昭和30年、県では当時人気の「映画」の幕あいに上映する広報に新たに取り組みました。「県政だより」「県政ニュース」などの名前で上映されたこの広報は、県政や地域の紹介など多くの話題を提供しました。

秋田県公文書館では、これら県政映画を保存し閲覧室で公開しておりますが、スクリーンで上映し皆様にご観賞いただく上映会も開催しております。

今回は、昭和30～50年代の「文化の日」にちなんだニュース映像をはじめ、県政各分野の施策や、菅義偉内閣総理大臣の郷里・旧雄勝町を扱った作品などを上映します。

いずれも当時を偲ばせる貴重な映像ばかりです。懐かしい昭和の秋田をぜひご覧ください。



～ナレーション採録～

■ナレーションの一部を採録しました■

I 昭和34年11月「県政ニュースNo. 24」

②雄物川のさけ網



11月に入り、すっかり秋も深まった雄物川では、今、勇ましいサケ漁の真っ盛りです。このサケは、毎年春に放流する4センチぐらいの稚魚が育ったものです。大曲市市営孵化場では、今年も3百万匹を玉川に放流。雄物川の本流から遠く北洋の海へと旅立つ、この小さなサケの出発を祝ったのでした。サケは、四年ごとに生まれ故郷を忘れずに帰るといわれますが、このサケを追って、今日もまた出漁です。北洋の荒海で育った見事なサケを前にして、漁師は網を引く仕事の中にも、愛おしさを覚えるということです。こうして網で上がったサケからは卵が採られ、人工孵化されて、また4年後の漁獲が約束されていくのです。

II 昭和39年11月「県政ニュースNo. 62」

③ふるさと散歩…本荘



本県の西南端に位するまち本荘は、肥沃な子吉川流域に広がる人口3万8千の静かなまちである。（略）

市民の憩いの地、新山公園からは市内が一望のうちは見渡され、石川善兵衛親子が植えたといわれる黒松の緑は、ここを訪れる人々の心を癒やしている。

菊花彫りで知られる本荘塗りは、今から約40年前に地元の土産品として作られたのが始まりと言われ、川連塗り、春慶塗りとともに県内外にその名が高い。（略）このまちでは“ごてんまり”が盛んに作られている。



昔、久保田城の奥女中が手慰みに作ったのが始まりといわれ、赤黄青の絹糸で織りなす模様づくりは“ごてんまり”のポイントといわれるだけに、手先の器用さと根気のいる仕事。36年の秋田国体では、県外の選手・役員にこのまりを贈って好評を博している。

悠々子吉の流れを今日も行く、本荘高校クルー。これまで全国優勝9回。高校日本一のこのクルーに寄せるまちの人達の期待は大きい。この若人達こそ観光と産業のまちとして発展しようとする本荘市を象徴しているかのようである。

III 昭和52年12月「(新)県政ニュースNo. 38」

①功績をたたえる

～第22回県文化功労者表彰式典



秋晴れの11月3日文化の日、県文化功労者を讃える第22回表彰式典が午前11時から、菊の花に彩られた県正庁で行われました。晴れの県文化功労者に選ばれた人は、結核の予防と治療に尽くすなど、保健衛生の向上に努めた、秋田市の鈴木次男さん、82才。民俗芸能に関する研究指導に当たり、伝統的民俗芸能の保存・育成に尽力した、田沢湖町の田口秀吉さん、76才。

内水面漁業の振興と経営・安定を図った、象潟町のニジマス養殖業、横山善四郎さん、76才。健全で正しい愛される野球の普及・振興に貢献した、秋田市の佐藤幸助さん、75才。学校植林を推進するなど林業の振興に努力された、秋田市の池田清次郎さん、75才。稲作栽培技術や集団化による合理化などを推進、農業の振興に寄与した、鹿角市の山本喜七郎さん、70才。広範な文筆活動により文化の向上に尽力した随筆同人誌「叢園」主宰、秋田市の相場信太郎さん、65才ら、7人の方々。関係者およそ250人が見守る中、小畑知事が功労者一人一人に表彰状と功労賞を授与。そして、知事をはじめ来賓の挨拶が述べられ、和やかなうちに県民の祝福を受けました。

V 昭和38年12月「県政ニュースNo. 53」

①冬に学ぶ山の子ら



寒さが本格化した本県では、雪のため通学困難な65の地区に、冬季分校を開設しました。奥羽山脈の懐深い雄勝町湯ノ岱小学校の畑分校でも、父兄の協力で分校へ椅子、教材などが運ばれています。今日は本校生徒とのお別れの日。「寂しくても、春まで元気で頑張りましょう。」と励まし合いました。共に学び、仲良く遊んだ友達との名残りは尽きないようです。